

令和2年度 防災教室講習会「質問・感想」集約

実施日：令和2年10月9日（金）実施

会場：奈良県社会福祉総合センター

【体験訓練の中で良かったこと】

- ・実際の場面を想定し、十分に物が無い中でどのように工夫して避難所の開設を行うかが体験できたこと。
- ・自分の経験をもとに、避難してきた人の立場に立って考えることができたこと。
- ・受入準備の際、互いに相談できたこと。
- ・初めて避難所開設訓練を体験して、イメージができた。スペースの分け方や役割分担の仕方など大切なことが分かった。
- ・こういった物、場所等の準備が必要か分かった。
- ・大きな声で案内できた。
- ・避難者の立場になって考えることができた。
- ・見えなかったことが見えるようになった。
- ・受付、コロナ禍での対応方法の基本がよく分かった。レイアウト・動線・多様な方々への対応が実際に理解できた。
- ・自分の場所が用意されていたこと。
- ・とりあえず動いてグループの方々と協力できた。
- ・避難所の造り方などを知ることができて良かった。
- ・避難者の流れを確認できた。
- ・設置する必要がある物品等分かった。
- ・足りない事柄が実際の動きで分かった。
- ・実際に避難する側と受け入れる側に分かれて体験することで、本当に起こりうる状況について考えることができた。
- ・スペース（具体的に2×2の4㎡）
- ・通路や発熱エリア、受付、コロナ対策など。
- ・今までイメージが無かったところが聞いて良かった。
- ・体験訓練をする機会が無いので、貴重な体験でした。コロナの世の中でいろいろな想定が必要だと感じました。
- ・実際の流れがイメージできたこと。
- ・実際に動くことで、難しいところが分かった。役割分担ができると動きやすい。
- ・防災士会の皆さんの指示、アドバイスをもとに参加者それぞれが、それぞれ考えたり、相談したりしながら動けたこと。
- ・避難所開設の大まかな概要が理解できた。
- ・身近なグッズを使ってシールドやパーテーションが簡単にできることが分かった。
- ・要配慮者への配慮の仕方に気付いた。
- ・受付の方の流れ。声かけがあると分かりやすい。
- ・様々な避難者がいるとイメージできた。
- ・Aチーム先生が全員中に入れたこと。
- ・役割分担の中で素早く対応できた。
- ・自分がいかに避難所運営についてイメージできていないかがよく分かった。シュミレーションすることの大切さを痛感した。
- ・受入側と避難する側の両方の体験ができた。

- ・避難所開設するうえで、事前にしっかりと打合せが必要であることがよく分かった。
- ・反省点から気付くことがあった。
- ・体験することで自分の学校に置き換えて考えることができた。
- ・1回目の班の取組を参考に、2回目することができた。
- ・支援の必要な人への対応が具体的にイメージして訓練できた。
- ・聴覚障害の方の演技をさせてもらって、不安な気持ちやしてほしいことを実感することができてよかったです。
- ・他の運営の方と協力できたこと。
- ・運営側と住民側の両方を演じることで、問題点などが見えてきたことが良かった。
- ・今ある物でどのように活用できるのか考えられた。初対面の先生とも声を掛け合い協力することができた。
- ・避難者がとても協力的であったこと。
- ・1回目のイメージを持って2回目がスムーズであった。
- ・実際の場面を想定して臨機応変にできた。
- ・いきなりスタートしたので受け身が能動的になった。
- ・2回目のグループだったこともあり、スムーズに運営することができた。混雑時には難しいことであるが、できるだけスムーズで円滑な運営をすることで避難者のストレスを減らせると思った。
- ・イメージできたのが一番良かった。
- ・いろいろな想定のもと、協力してできたことは貴重な体験になった。
- ・双方の体験ができたこと。
- ・設営時のスピードを大切にしなければならないことを体験できた。

【体験の中で悪かったこと】

- ・リードをとる者や、その周囲の者が声かけして、今何をしているか、すべきかを明確にする。共通理解する必要があるがあった。
- ・役割分担をもっと明確にしていかなければ対応できない。
- ・各班打合せの時間がもう少しあれば・・・。
- ・指揮するとおり動けなかったこと。
- ・分からないことを全て他の人に委ねて、自分で考えられなかった。
- ・自分の担当以外の動きについては全く理解できていなかった。「担当じゃないので」とたらい回しにしてしまう可能性があるのではないかと感じた。
- ・突然すぎてみんな自覚が薄く、青写真がバラバラだった。
- ・受付周辺が密になったこと。想定できないことは何もできない。運営者全体で共有できていないことがあった。
- ・最初に一人一人のスペースを作るのが戸惑った。
- ・運営側が密になりがちで、コロナ対策が万全とは言えなかった。
- ・避難所の運営側が密になってしまっていた。
- ・受付付近が密になった。同じグループの人がどんな担当、役割をしているのか把握し切れていなかった。
- ・他の人に任せっきりになってしまい、自主的に動くことができなかった。指示待ちになってしまった。
- ・設置のAグループで最初だったので戸惑いがあった。
- ・与えられた時間を有効に使えなかったこと。
- ・密がどうしてもできてしまう。

- ・何かが起こってからの対応になってしまった。
- ・Bグループを入れるのに時間がかかった。
- ・声かけが少なく、全員がうごきを分かっていないときがあった。
- ・落ち着いて、ゆっくりと言いながら、自分が一番落ち着いていなかった。
- ・それぞれがその場その場で、避難所開設に動いていて全体の共通理解ができなかった。
- ・準備に少し時間がかかった。
- ・それぞれの係で横の連絡が取りにくかった。消毒は各自でしてもらえば良かった。
- ・なかなか自分で動けなかった。
- ・ほとんどが初体験であり、要領が得られなかった。
- ・区画整理を優先して、自分が担当した障害者担当の仕事を全うできなかった場面があった。
- ・受付の待ち時間。
- ・開設までに役割分担をしっかりとできなかった。
- ・通路を確保できなかった。
- ・受付で混雑させてしまった。
- ・受入者の態度が悪く切り捨てた。
- ・スペースの作り方で2mの確保ができていなかった。打合せが不十分で対応するのが難しかった。
- ・スタッフと避難者の区別がつかなかった。
- ・体制づくりは時間との戦いですが、判断に時間がかかりすぎてしまった。
- ・役割だけを考えて、多様なパターンがあることまで考えを広げることができなかった。

【自分が体験訓練でできたこと】

- ・感染対応を意識して、対策ができていない方への声かけ（マスク着用）ができた。医療機関にかかることを想定し、体調の詳細について聞き取った。
- ・女性という立場でどのような点に気をつけるか気づけた。また、亡くなった父の介護をしていたので、介護が必要な場合のポイントがなんとなく感じられた。
- ・役割分担をして、担当者を決めることができた。
- ・自分だけで対応できなかった場合、避難者に手伝いを願い、一緒に助けてもらった。
- ・ソーシャルディスタンスを保った避難所運営ができた。
- ・体調不良者を誘導できた。
- ・2m×2mでの4㎡を机（1.8m）で的確に作る事ができた。
- ・指示されたことはできた。
- ・他の方と協力して取り組むことができた。
- ・設営をスムーズにできた。率先して行動に移すことができた。
- ・支援のあるなし、要望などを連絡係の人にスムーズに伝えられた。
- ・適宜、机・イス等動かして避難所の形にするために動けたところ。
- ・思いやりの声かけができたと思うが・・・。
- ・事前受付で、配慮を必要とする人を積極的に見つけようとしたところ。（間違っているかもしれないが）
- ・積極的な机の移動、会場設営。
- ・主となって先生方と運営できたこと。
- ・コロナ対応の役割。
- ・困っている人、忙しそうなお手伝いしなさいと声を掛けることができた。
- ・受付だったので、スムーズに流れるように他の係と連絡を取り合った。
- ・赤ちゃんの授乳スペースや着替えスペース作りを、イスやカーテンを使って行った。

- ・コロナ対策として、住民の避難場所の確保。
- ・実際に体験することで、もし災害が起きたときの初動を早くできるようになったのではないかと思う。
- ・臨機応変な対応。
- ・コミュニケーション。
- ・通る声を出す。
- ・みんなが各々の担当のエリアを確保するのに必要で、残されたスペースが出入口前だけになってしまったのが、逆に障害者は動線が出入口まで短い方が良かったため、逆境を逆手にとって有益にできた。
- ・発熱者を完全に隔離することができた。通り道を別にするなどの工夫ができた。
- ・短時間での受付の設営。
- ・協力してできたこと。
- ・時間のかかる協働せざるを得ない部分をコミュニケーション中心に進めることができた。
- ・床の硬さがよく分かった。

【自分が体験訓練でできなかったこと】

- ・体調の悪い方の居心地や過ごし方や困り感について聞き取れなかった。
- ・考えられることが多く、1つ1つに対処していく必要があった。このルール作りが難しかった。
- ・すぐ動けなかった。
- ・要望を言われたときに、案内役に引き渡すことしかできなかった。受付と案内の連携が必要。また、事前の想定（どんな人がいるか、何が必要か）をしておく。
- ・通路を、発熱のある人とない人で分けるために変えたことで受付をせずに通過する人が出てしまった。コロナ等でその後を追わなければいけないときにできなくなってしまう可能性があった。
- ・避難所の開設、人数の確認、そこから逆算して、理想は4㎡だが現実は何だけの広さが確保できるのかの逆算ができなかった。
- ・要配慮者へのきめ細かな対応。
- ・手の消毒を避難者全員に伝えることができず、自主的にやっていただくことで助けられた。
- ・バタバタ動いていたので自分の担当以外の場面を見ることができなかった。
- ・障害のある住民。体験することで運営についてもより理解が深まる。
- ・避難してきた方に対する心配りや声かけが十分できなかった。
- ・受付の内容をもっと体験してみたかった。
- ・役割分担で決まった人への対応しかできず、たくさんの避難住民が入ってくる中で、臨機応変な対応ができなかった。
- ・もう少し全体を見て冷静に動いた方が良かったと思う。
- ・よく分かっていないために積極的に動くことができなかった。
- ・密になってしまう。
- ・運営側の密を避けられていなかった。
- ・周りへの指示や声かけが少なかった。
- ・避難所の設営と全体の指揮。
- ・受付、誘導などの体験があまりできなかった。
- ・名簿の形式、どのようなものが良いのか作る際に迷った。
- ・喫煙対応が分からず、副主任に投げてしまったこと。指示を出してくれている先生を見て、自分はそこまでできるのか不安になった。
- ・いろいろな人の対応が、自信が無いために即座に対応ができない。

- ・リーダーから役割分担を聞いたときに、この部屋をどのように区切るかの見取り図を作るべきだった。
- ・思ったことは躊躇せずに発言する。
- ・指示がなく自分で判断する場合に誰と報告・連絡・相談するのか。
- ・短時間での準備。
- ・要望（役割）が予想以上に多くあったので、全員での打合せができずにスタートした。救護用のベッドを設置しておくべきだった。
- ・スムーズな案内ができなかった。
- ・何をどうすれば良いのか分からず指示待ちになったこと。
- ・責任者の役割をさせてもらったが、テキパキと指示ができなかった。
- ・必要と思っているものが手元に無いと何をどうすれば良いのか焦ってしまった。

【質問・意見・感想】

- ・時間の無い中でも臨機に対応すること、避難者が次から次へと押し寄せる中、諦めずに最良の策を考える（途中で思いついた場合も）被災者、運営側も一目で分かる避難所＝自主的に運用できるようにすることが大事であると思った。対応する中で、気付いていない準備忘れについて適時お声がけいただき、それに対して考え動くことができ良い経験になった。体感し気付いたことなど整理し、地域の方や市町村の担当者と連携し、よりよい避難所運営に生かしていきたいです。
- ・実際に自分が訓練を受けたことで、知る・解ることがたくさんありました。「役割を果たす場所…」とお話しにありましたが、避難所での役割について今後、学校に戻りましたら事前に名前を入れて決めておくことが大切だと思い、気付かせていただきました。
- ・受入を行う際、どのような人が来るかもしれないと考える際、ペット連れや外国人の方、様々な状況下にある人がいるだろうと思っても、案外その方々にとってどのようなことが必要なのか、分かっているようで分かっていなかったです。
- ・受入態勢、設置訓練については教職について30年経ちますが、やったことないなあ・・・と振り返りました。全く知らないでいる怖さを、本日思い知りました。
- ・台風14号が近づいている今日のこの訓練、タイムリーで改めて「命を守る」考えさせられました。
- ・実際に避難所を開設するときにはしなければならないこと、注意しなければならないことなど知ることができた。受付は大事でそこで対応を間違うと、トラブルが起こってしまうことがあるなど、避難してきた人たちが安心安全に過ごしてもらうことが大切だと思った。
- ・避難所という場で、無理なお願いや他の避難者の迷惑になる行動、発言をする人への対応が難しい。
- ・今回の体験で最初にBの避難者を行ったので、どんな避難者がいるかイメージできて避難所開設ができた。しかし、実際はもっと色々な方がおられると思うので臨機応変な対応が必要と感じた。
- ・なかなか想定通りにはいかないことが多かった。
- ・コロナ感染者や濃厚接触者が避難者になる場合、単に体調不良の者と分ける必要があると感じた。受付時から分ける方が望ましい。
- ・実際に学校が避難所になった時の初期の受入体制を、地元役場との具体的な確認や連携の必要性を感じた。
- ・特に、地震等の急な災害発生時の開設には、教員が関われない日時となったとき、地元役場との普段からの確認が必要があると強く感じた。
- ・避難所を実際に開設され、その折に対応した細かな具体的事例の講和を（体験された教員を講

師として) 計画いただきたいです。

- ・奈良市とて、本校は二次避難兼福祉避難所になっていて、要配慮者を中心に在校生、卒業生とその保護者としています。実際その通りになるのかは分からないし、不安なので学校でも想定した訓練が必要だと感じました。また、地域との連携、自主防災会などとの連携も必要かと思いました。
- ・設置に必要な物品等、具体的によく分かった。
- ・過去に起きた様々な災害時のことについて学び、次に必要になったときのために生かし、備えておくことの大切さを改めて感じました。自分自身が避難者になったとしても、できることは自分でやることや、助けられることはないか積極的に行動できれば、大変な避難所生活も少しは緩和できると思いました。
- ・スペース確保+プライバシー →テントを張ることはしないのでしょうか？外国はテント設営で対応しています。
- ・今年転勤してきたところだが、学校周辺の手帳マップや学校の備蓄品の場所を確認しようと思った。
- ・地震は、突然やってくるものなので、避難所開設をスムーズに行えるように日頃から意識すること、地域とつながっていくことが重要だと感じた。
- ・初めての体験でしたが、とても勉強になりました。いろんな状況で、要支援の方への対応など、臨機応変にやっていく必要があること、事前の準備、想定をしておくことが大切なのだと学びました。防災教育を授業の中でもしているはずの学校の先生たちが自分の非常時持ち出し袋をまとめていない人が多いのも課題だと思いました。
- ・避難訓練の際、子どもに避難者としてできること、要配慮者に配慮することなどの話ができると思います。まず、難を避けることが大事。
- ・受入側の共通認識がないと、なかなか動きにくいことが分かった。役割とリーダーは必要不可欠であると感じた。実際に避難が必要な時は、時間との勝負なので事前に役割分担をしておきたい。現場にあるものです、そして、たくさんの人の力を借りるということを大切にしながら今後に向けて備えていこうと思う。
- ・学校全体として、避難所開設に向けての訓練をしておかないといけないこと、今はそこまでの危機管理意識が薄いということが、コロナ対策との両立が難しいということ、しかし、難しいというだけでなく、しっかりと今の状況を考えていかなければならない。
- ・できていない、分かっていないことを知ることができたことはよかったが、せっかく体験するのだから、気をつけるポイントなどを教えていただき、チームで相談してから体験した方がより上手くいったように思います。運営する側の人たちとのコミュニケーションも大切だと思いました。実際には、こんな程度の混乱では済まないと思いました。
- ・各係が協力をしてできていたと思うが、係と係をつなぐ役割、係のリーダーが必要だと感じた。ちょっとクレマーの役をやってみたが、訓練だったので相手の方も適当な感じの対応(「みんなも我慢している」)だったが、実際にたくさんの要望に応じて行くには大変な苦労があると感じた。
- ・体験型で訓練することができ、学びがあっただけでなく記憶に残るものになりました。今回の経験を生かしていけるよう考えていきたいと思います。
- ・自分自身の非常持ち出しの準備ができていないことの反省などがある。
- ・担当課との簡単な打合せをしているだけなので、本日の研修のような体験訓練を実際におこなうと強く思った。
- ・被災者も協力してもらうような声かけが大事。
- ・避難所開設体験を通して、ある物でなんとかする(工夫する)設営の仕方、要配慮者に安心してもらえるようどう接したら良いかを具体的に考える機会をいただき、大変勉強になりました。

避難時の持ち出し袋にこれからはコロナ対策のマスク、体温計、石けん消毒を準備し備えたいと思います。

- ・個の力ではなく協力することが本当に大切だと感じた。自助・共助・公助、それを具体的にどうすれば良いのか考える機会になった。組織として想定外のことに対応するための訓練が必要だと感じた。
- ・コロナ感染防止から二段階の受付の必要性を感じた。
- ・実際、経験してみなければ分からないことが多くある。このような協力的な方々の中であっても、想定外のことが起こる。実際訓練する必要があると実感した。
- ・今日は避難所の雰囲気を経験できました。機会があれば、校内でも行っていきたいし、まずは自分が校内の避難方法、道具など確認したいと思いました。自分のできなかったことを、話も聞かずに決めつけて、良くないと一蹴し、何度も指摘され全体でも指摘されることの辛さが実感できました。ありがとうございました。
- ・避難所運営にあたり、「リーダー」、「リーダー目線からの各々の担当」の経験があれば、自分がすべきことが明確になりやすいと思う。
- ・よく分からないまま避難する方が入ってきてくれて、手当たり次第その辺にある物を使った。今日やってみたことで、受け身ではなく自分も参加して避難所を運営して、みんなて過ごすのが大切だと思った。
- ・とても有意義な研修になりました。ありがとうございました。
- ・実際に災害が起きたときに、教師はどう動くのか、自分は全く知らないことに気付いた。他の教師も知らないと思う。学校でしっかりと会議をして、想定・準備をしておくことが必要だと実感した。自分の地域に防災士の方がどれくらいいらっしゃるのかも気になった。安全担当としても、それ以外の職員も把握しておくべきことがたくさんあると分かった。
- ・危機管理はとても大切。「さ」いあくを想定して、「し」んちょうに、「す」ばやく、「せ」いいを持って、「そ」しきで対応していくことが大切であること再認識しました。「備えあれば憂いなし」ということわざを改めてかみしめたいと思います。
- ・教員の動員は、有事の際に順番があり、誰がどのような事態ならば動く必要があるのか、実際よく分かっていません。もしもの時、開設から運営までには準備段階で私を含め学校職員の詰めの甘さを実感した。
- ・避難所を開設する側、受け入れる側にいる者として、災害発生時から市町村の災害担当部局に引き継ぐまでの間、学校の職員で全て対応せざるを得ないです。学校としては、できるだけ早期の通常教育活動再開をしなければならないです。そのためにも、開設時の住民とのルール決めが大切になると思う。再開の妨げになる場所、職員室・保健室・特別教室（調理員室など）には立ち入らせないことや、トイレの使い方、ごみの扱い等、初期対応が大切になると思います。災害発生時に慌てないためにも事前の危機管理、災害発生時、その後の危機管理について災害別のマニュアルを作成するなど十分な準備をしておかなければならないということがよく理解できました。

【一番印象に残ったこと】

- ・実際の場面を想定した避難所運営を体験したこと。被災者の立場もできたことで更に深まった。
- ・「生徒たちの活動が支えになる」中学生、高校生は守られる側から支える側、支援者として十分に戦力になる。平素から生徒たちに危険予測、危険回避の力を付けさせ、奉仕の精神を育む防災教育を展開する必要があると感じました。
- ・慌ただしすぎて、あっという間の体験すぎました。もっと時間をかけて十分に理解を深められたら。
- ・事前に準備しておくことが大切であること再認した。

- ・実際に体験できたこと。
- ・パニック感を味わえたことが良かった。日頃からの備えの重要性を改めて感じた。
- ・あるもので、とりあえずやってみること。
- ・日頃の勤務の中で、学校全体を見る立場にあるので「全体→個々の担当」という目線で事を進めるが、一方で「自分の担当の達成のみ」に力を入れている人もいるため、「すりあわせ」が必要であると思った。
- ・実際の防災士の方から生でレクチャーが受けられたこと。
- ・実際やってみてはじめて分かる。一人では何もできない。
- ・教師の密はどう守れば良いのか。きっと避難者を優先して疎かになるのではと感じた。
- ・実際に体験訓練をすることで、より理解が深まった。
- ・実際に避難所の設営をしたこと。万が一の時、経験を生かして動けると思いました。
- ・役割を、交代に各々の立場で体験したこと。
- ・他の先生方と協力できたこと。
- ・初めて避難所開設の訓練を体験でき良かった。
- ・1回目より2回目の方がスムーズに運んでいたため、日頃からの訓練が大切だと痛感した。
- ・体験から学ぶことは多かったため、今後もこの形は続けていただきたいです。
- ・コロナの中で、避難所をどのように作っていくのか。
- ・会場を作るには共通認識が大切。
- ・体験型だったので分かりやすかった。
- ・イレギュラー対応の多種多様さ。
- ・障害を持つ方や、避難所でニーズを求める方、様々な想定が大切だと思ったので対応の訓練は貴重でした。
- ・実際に体験する方が講義スタイルより、自分ができるところまでできないことがはっきり分かった。
- ・避難所のルールについて。
- ・事前の教員の役割分担の決定。ある程度のルールの設定。
- ・体験型の研修で良かった。
- ・避難所開設の流れを初めて体験できた。
- ・避難所の開設と運営。
- ・事前の確認や準備が重要。
- ・体験型の研修でスキルアップにつながった。
- ・自分自身が非常持ち出し袋を準備すること。
- ・マニュアルを決めておくこと。
- ・避難所が学校の体育館になった場合のイメージができた。
- ・今まで避難映像を何気なく見ていたが、その区割り（スペース配置）は、様々な視点から考え、行われているということを知れたこと。
- ・相手の立場になって役割を果たすことが、自分の役割であるという自覚ができました。ありがとうございました。

【体験訓練の評価】

1. 参考になった	・・・	33名
2. まあまあ参考になった	・・・	6名
3. 普通	・・・	1名